

広報さくら

◆◆ 第115号 ◆◆ 令和5年3月1日
発行: 日本大学明誠高等学校後援会



主な内容

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| ○ごあいさつ…………… 学校長 …… 2 | ○文化祭-お茶処…………… 13 |
| ○1年を振り返って… 会長 …… 3 | ○強歩大会 …… 14~15 |
| ○体育祭…………… 4~6 | ○強歩大会-支援活動…………… 16 |
| ○保護者対象講演会・
山梨私学のつどい…………… 7 | ○賀詞交歓会・後援会活動の様子…………… 17 |
| ○文化祭…………… 8~12 | ○令和4年度後援会活動報告・
編集後記…………… 18 |



ご卒業おめでとうございます。

お子様が本校の課程を無事終了し、ここに新たな出発点に立たれたことを心から祝福申し上げます。

今年度も昨年度に続き、新型コロナウイルスの影響を受けることとなってしまいましたが、学校としては、4月の球技大会、6月のJ:COM ホール八王子での「アカデミア明誠」を開催しました。特に「アカデミア明誠」は準備期間も短く、初めての試みということで、どのような内容になるのかと心配していることもありました。しかし1年生のクラスCMや2・3年生のクラスパフォーマンス、文化部の発表、ビデオバトル、どれをとっても素晴らしい内容で大変驚きました。

二学期には体育祭を3年ぶりに午前・午後で実施することができました。さわやかな秋空の中それぞれの種目で躍動する生徒たちの姿は、微笑ましく映りました。そして11月22・23日の文化祭も雨天の影響で2日目の内容を変更することにはなりましたが、今年度は保護者の皆様にも来場していただき、芸人さんをお呼びし、模擬店や種々のステージ企画もほぼ例年の形で実施することができました。やはり来場者があることは生徒たちのモチベーションにも大きく影響するようです。そして11月には芸術鑑賞教室として、帝国劇場主催の『天使にラブ・ソングを～シスター・アクト～』を全校で観劇しました。本物のエンターテイメントに触れたことで、大きな刺激を受けたことが事後のアンケートからもうかがえます。そして12月には3年生の研修旅行、3年ぶりに2年生の修学旅行を実施しました。

これらの学校行事を通して見えた生徒たちの笑顔は、輝いており、改めて学校が持つ役割の重要性を実感する出来事になりました。マスクの着用はもちろん、毎朝のサーマルカメラによる検温とアルコール

による手指消毒はすっかり日常の光景となりました。コロナ禍となって3年経った今でも終息の見通しは立っていません。本校としてはこれまでも情報を精査しつつ、冷静にその時々で判断をし、感染対策をしながら学校行事等を行って来ました。後援会の皆さまには小宮会長を中心に学校内外の情報を共有していただき、ご協力していただきましたことに対して感謝申し上げます。

これから新たなステージへの歩みを進める卒業生の皆さんには『日日是好日』という言葉を送ります。「日日是好日」は、中国・唐時代の雲門文偃禅師の言葉です。この言葉は私たちの人生は雨の日もあり、風の日もあり、晴れの日もあります。雨の日は雨の日を楽しみ、風の日には風の日を楽しみ、晴れの日には晴れの日を楽しむということの意味します。すなわち楽しむべきところはそれを楽しみ、楽しみ無きところもまた無きところを楽しむ、どんな苦しい場面に置かれても、これ好日と、カラ元気でなく心から味わえるようにならなければならないということです。

人生は一瞬一瞬を積み重ねてきたその日に集約されるので、たとえ目の前にある現実が悲しい日、苦しい日でも、あるいは楽しい日、喜ばしい日でも、すべてが『日日是好日』なのです。つまり生きることがすばらしい。生きることそれだけで、何にもいらない。そう思うときに今日が明るくなるということです。「こうでありたい」と明日に重点を置きすぎると、プレッシャーがかかります。先のことは、気にかけないで今日一日を精一杯生きるように心がけてください。無為に過ごした日々については反省し、1日1日を大切に生きる生き方をしてほしいと思います。慶應義塾大学を創設した明治の啓蒙思想家福沢諭吉も「今日も生涯の一日なり」という言葉を残しています。

コロナ禍のために、さまざまな部分で工夫や対応を求められる高校生活ではありましたが、生徒たちはその状況下でできる限りの活動を逞しく行ってくれました。卒業生各人が本校で経験し、学んだことをもとに、これからも能力を十分に発揮して欲しいと思います。そして自らの希望を実現し、社会で活躍されることを教職員一同祈念いたしております。

最後になりますが、保護者の皆さまにはこれまでの本校に対するご支援に感謝申し上げますとともに、今後とも本校を温かく見守っていただければ幸いです。



皆様には日頃より後援会活動にご協力いただきありがとうございます。

令和4年度、会長という大役を仰せつかり、早一年が終わろうとしております。

世界中を脅かす新型コロナウイルスの流行から感染症の拡大防止に伴い、すべての後援会活動が自粛もしくは中止を余儀なくされ2年が経過し、何も経験しないまま後援会活動がスタートしました。幸いにも、今年度の後援会は例年行われておりましたすべての行事を十分な対策を取りながら実施できていることは、校長先生をはじめとする教職員の方々のご理解と、後援会の皆さまのご協力があったることと心より感謝申し上げます。

振り返れば、昨年6月には研修部会主催の日本大学法学部への訪問研修会がありました。学部の特徴や子供たちの進路について学ぶことができ、子供たちの目線から日本大学を更に身近に感じる機会となりました。



9月には、日本大学文理学部の滝澤雅彦教授に御来校いただき、「明誠生の『生きる力』と『生きていくための力』とは」と題した保護者対象講演会を開催しました。変化のスピードが速くなっている現代、求められる知識や技能はどんどん変化していくように思います。

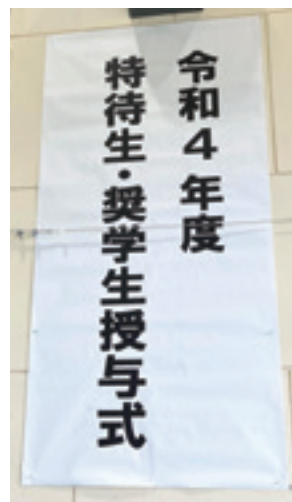
滝澤先生の講演は、この時代にふさわしい「知・徳・体」をバランスよく自分自身の中に一体化し共存することがこれらの時代にあった生き方だと深く心に残る時間となりました。

11月には文化祭が2年ぶりに保護者の参加が可能となり、2年生の役員の方々を中心となりバザーも実施することができました。3年生の保護者の方々にとっては、最初で最後の文化祭の参加となり、子供たちが試行をこらした活躍を見ることができ嬉しく思いました。尚、収益金は本年2月に実施される強歩大会に役立てられました。

年が明けて、1月には教職員の方々と後援会役員の参加による賀詞交歓会が3年ぶりに京王プラザホテル八王子にて開催することができました。先生方の子供たちの指導方針や考え方を享受することができ、また学校事務局の方々との親睦が図れ、とても良い機会でした。2月には学校行事である強歩大会への支援としてコース上での安全管理のための見守りと生徒達へのおにぎりとお汁を振舞いました。

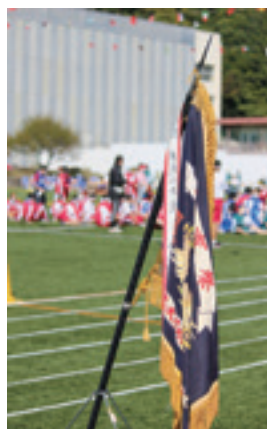
最後の行事には3年間お世話になった先生方に感謝の気持ちとお礼をお伝えする「卒業謝恩会」を開催します。

改めまして、後援会活動にご理解とご協力をいただきました教職員の皆様、後援会活動を盛り上げて遂行していただきました後援会の皆様に感謝申し上げます。後援会活動は、子供たちを後押しする応援団として、親が学校・地域と連携を取り、どう対応するかを学ぶ場であるとも思っています。子供たちは日々成長し、同時に社会も目まぐるしく変わっています。更に子供たちがたくましく育ち、希望のある将来へつき進むためにできるだけ多くの選択肢を持ってもらいたいと思います。これからの子供たちの活躍、並びに後援会の益々の発展を祈念し、お礼の言葉いたします。1年間本当にありがとうございました。









保護者対象講演会報告

総務部会長 内野 良恵

令和4年9月3日(土)本校多目的ホールにて、後援会主催の保護者対象講演会が実施されました。

新型コロナウイルスの影響で平成30年以来、3年ぶりの開催となりました。

講師として日本大学文理学部教授・教育センター長滝澤雅彦先生にご登壇いただき「明誠生の『生きる力』と『生きていくための力』とは」のテーマでご講演を頂きました。

滝澤先生のととても興味深いご経歴から、今回のテーマの重要な鍵となる知覧の『富谷旅館』のお話。特に『富谷旅館 鳥濱トメさん』のお話は会場にいる全ての保護者がこの幸せな時代に生

きるわが子と重ね合わせ涙を流しました。

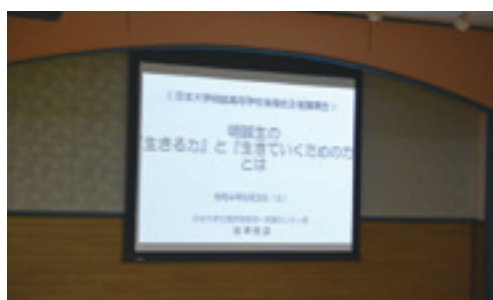
その時代の同じ年頃の青年達は何を思い生きていたか、生きようとしていたのか、無念とならなければならなかったのか。

その気持ちがわかれば、生きる力、生きていくための力が自然と分かってくる内容でした。

とても考えさせられるお話でした。

コロナ禍にもかかわらず、当日は70名を超える保護者の皆様にお集まりいただき大盛況で講演会を催す事が出来ました。

後援会一同、心より感謝申し上げます。



2022山梨私学のつどい報告

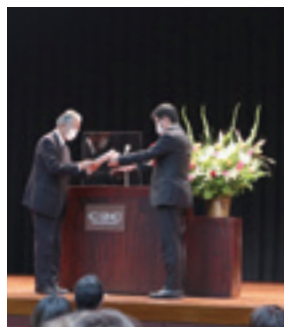
研修部会長 舟橋 博子

11月5日(土)晴天、山梨学院大学メモリアルホールで行われた、山梨私学のつどいへ参加しました。山梨県内の70を超える、私立の幼稚園・認定こども園、小・中・高校から、参加者が集まりました。

この集いの主催団体の一つである山梨県私学教育振興会は、山梨県内の私立学校の教育環境整備や教育充実を促進する事業を担っている機関です。振興会会員から集められた、教育費用の協力を願う署名が山梨県知事に手渡され、その多くの署名の想いが私学へ通う子供達の未来へ繋がることを願いました。

基調講演では、講師として2000年生まれの現役東大生でありながら化学者・発明家でもある村木風海先生を迎え、聴講しました。村木先生は二酸化炭素をテーマに地球温暖化や地球の未来について、日々研究と発明を重ねていらっしゃいます。10歳で二酸化炭素に興味を持った頃から、自由に学び研究できる環境を与えてくれたご両親や学校の先生方に感謝されていたのが、特に印象的でした。親として、子供の興味に寄り添い共に学ぶ大切さを実感しました。

改めて子供達の教育と未来を考える良い機会となりました。













3年振りとなる今年度の文化祭での後援会活動はコロナ禍ということもあり、これまでとは異なる新たなスタイルで活動することとなりました。初夏に開催されていた文化祭の時季も晩秋に変わり11月22日・23日に開催されました。学校への来場制限があり、普段お世話になっている上野原地域の皆様之恩返しができないということで、今年度の活動はお茶処のみとしました。親しみを持ってもらうため「誠風」と愛称をつけ、役員・委員が気持ちを一つに取り組みました。

初日は絶好の秋晴れで小春日和となったことから、屋外に売り場を設置したり売り子に廻ったりとみんなアイデアを出しながら活動しました。2日目は一転して雨天となりましたが、屋内に人が多くなったことで活気と賑わいを取り戻すことができました。新たな試みで手探りの活動となりましたが、活動を通じて多くの方とコミュニケーションをとることができ、後援会の皆様や教職員の皆様方にご協力とご助言を頂きながら充実した時間を過ごすことができました。

した。そして、「誠風」に関わった皆様方との絆を深められたことが何よりも大きな成果になりました。ありがとうございました。

また、教職員の皆様にはコロナ禍ということで、来場制限など難しい判断をしなければならな

かったことと思いますが、文化祭を肌で感じるができる機会を設けていただいたことにお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

なお、急遽バザーコーナーも併設することとなりましたが、短期間にもかかわらず多くの商品を提供していただきありがとうございました。収益については2月に開催の強歩大会で生徒に還元させていただきました。







2月18日(土)、3年振りとなる強歩大会が開催されました。今年は後援会支援活動として生徒たちに振る舞う豚汁作りとコースの安全確保のためのコース誘導を行いました。未だ続くコロナ禍での開催ということもあり、無事に開催できるのかという不安もありましたが、当日は天候にも恵まれ一生懸命に走る生徒たちへ励ましの声援を送り、ゴールした生徒を労い、明るく楽しく且つ安全に実施することができました。

学校行事に制限がある中、後援会活動もままならず、私たち実行委員会が取り組みを始めたのは11月のことでした。とはいえ何をすればいいのか、どのようなイベントなのか初めは理解しきれていない状況でしたが、先輩役員からの資料や丁寧なアドバイスのおかげで、スム

ズなスタートを切ることができました。

限られた短い期間で話し合いを重ね、前日と当日の準備では感染防止を最優先に食材の調達や仕込みと調理、テント張りなどを行いました。そして、ゴールした生徒たちが豚汁とおにぎりを美味しそうに頬張る姿を見て、達成感と安堵感を得ることができました。私たち保護者にとっても、今後の後援会活動に繋がる大きな財産となりました。

最後に大会の支援に協力いただいた役員、委員、保護者の方々、そして運営に尽力してくださった先生方に厚く御礼申し上げます。これからも後援会活動にご理解ご協力いただきますようお願いいたします。



賀詞交歓会・後援会活動の様子



令和4年度 後援会活動報告



◆編集後記◆

今年度も皆様のご協力により、「広報さくら」を発行することができました。

原稿をお寄せいただいた土屋校長先生、後援会役員の皆様、お手伝いいただいた方々には、心よりお礼申し上げます。

3年ぶりに行われた行事も多く、初めて取り組む役員も、手探りで進めてまいりました。

日ごろ、足を運ぶ機会の少ない保護者の皆様へ、一つでも目に留まった学校の様子・情報をお届けできたなら幸いです。

これからも楽しんでいただける「広報誌」を心がけ、作成に励んでいきたいと思っております。今後の参考にいたしたく、ご意見、ご感想、ご要望などありましたらお知らせください。一年間ありがとうございました。
(部員一同)



※十分な感染症対策を行った上で、マスクを外して撮影しています。